



会長あいさつ

公益社団法人日本診療放射線技師会

会長 上田 克彦

創立75周年記念式典と第38回学術大会

本年（2022年）7月16日に本会創立75周年記念式典を挙行政致しました。新型コロナウイルス感染症第7波の拡大が始まったばかりの開催で参加できなかった皆さまもおられました。式典には感染対策に十分配慮しながら約200人のご参加を頂きました。岸田文雄内閣総理大臣と後藤茂之厚生労働大臣からはビデオでご祝辞を頂き、古賀篤厚生労働副大臣からご祝辞ならびに会員への厚生労働大臣表彰授与を頂きました。記念講演として国際医療福祉大学 鈴木康裕学長から「日本の医療の将来」と題して、人口減少時代に入った医療と診療放射線技師の将来についての方向性を示していただきました。

式典では本会として75年を振り返り、国家資格設置の後押しとなった結核対策から現在に至るまで、感染症・がん対策において診療放射線技師が特に国民医療に貢献してきた歴史、業務拡大において幾度となく活躍の場を広げていただいたことに、会長として、諸先輩方のご尽力に感謝を表しました。また将来に向けて放射線診療に携わる領域のみならず、チーム医療の一員として看護領域やさまざまな医療技術領域との連携強化を図ることを力説致しました。

さて、第38回日本診療放射線技師学術大会は兵庫県放射線技師会 後藤会長に大会長をお願いし、兵庫県の皆さまのご協力により神戸国際会議場で開催する運びとなりました。本大会は昨年の第37回東京大会でのハイブリッド開催の成功を参考にしながら、アフターコロナを期待して準備を進めてきましたが、残念ながら今回も情報交換会と海外からの関係団体招聘は見送ることになりました。開催期間（9月16～18日）の新型コロナウイルス感染症の状況が大変気になるとは思いますが、オンデマンドによるWeb開催も可能となっておりますので、現地開催後でもたくさんの大会企画をぜひご視聴いただきたいと思えます。

例年と同様に、厚生労働省さまからの基調講演は「がん対策の推進について」「令和4年度診療報酬改定について」「医療安全から鑑みた画像診断報告書 管理体制の必要性について」「これからのチーム医療とタスクシフト・シェア」の4題（いずれも仮題）を頂き、各テーマに関連したシンポジウムを企画しています。また会員からは業務改善につながる発表を319演題応募いただきました。感染拡大の中の大変な時期に発表いただく皆さまの取り組みに、敬意を表したいと思います。

学術講演の他、市民公開講座の講演では、神戸を拠点に執筆活動をされている小説作家の今村昌弘先生にご登壇いただきます。今村先生は、診療放射線技師として執筆活動をされてこられました。が、「第18回本格ミステリ大賞」などを受賞され、最近では小説家として活動されています。また『ラジェーションハウス』の立案をされた五月女康作先生の講演など、盛りだくさんの企画をご準備いただきました。大会の企画から準備・運営までご尽力いただきました。兵庫県放射線技師会の皆さまに感謝申し上げます。この学術大会が皆さまのお役に立てることを祈念しております。